

社会性発達テストの因子構成

倉 石 精 一

この研究は過去数年間我々の行ってきた社会性の測定と評価に関し反省を行い、新しい視点へのきつかけをつくる目的をもつて居り、具体的には社会性発達テストの今後の改訂に必要な資料を求めようとするものである。

I 問 題

社会性と呼ばれる児童生徒の人格の一側面は、一般には将来の社会生活に適応するために必要な諸能力の総体と考えられている。児童の素質を評価するに当つて、客観的資料として先知能テストの成績が重要視される。そして従来はこの頭のよさが過度に重んじられる傾向があつた。然し知能テストの評価と実際の人物評価はどこかびつたりしない所があり、これに対し他の一面である社会性の評価を併用することによつてより妥当な人物評価が成立するという主張が盛んになつて来た。ここに社会性の測定に関する研究が活潑になつた根拠がある。

総体的な概念としての社会性は、いくつかの能力群から構成されると考えられている。この種の研究の先覚者として知られている E. A. Doll の考想による能力の6のカテゴリーなどが典型的の例である。即ち幼児期において逐次獲得される生活上の自立能力 (Self-Help) 自発的意志決定能力 (Self-Direction), 自己の活動領域の拡張を意味する移動能力 (Locomotion) 日常生活に必要な作業能力 (Occupation), 他人との意志交換能力 (Communication), 対人関係の調整や集団への適応を意味する社会的能力 (Social-Relation or Socialization) 等を構成成分とする考え方が一般に普及している。

これらの能力群の設定は常識的な基準によつているのであつて、その限りでは妥当であるが、それぞれの能力群が総体としての社会性にどの程度の重みを加えているかは未だ明らかでなく、また能力相互の心理学的関係も分明ではない。ある能力群に属する個々の能力、具体的にいうならば自立能力に属する「爪を切ること」と「寝具を片付けること」とが類似した発生的根拠をもっているものか、そうでないものかは一向明かになつていない。一般に社会性のテストはいくつかの能力群を設定し、それに属すると推定されるテスト項目を通過率順に並べるといふ仕方で作られているが、この能力のカテゴリーが比較的類似している項目群の包摂概念として妥当であるかどうかは研究の余地がある。

この議論は「能力」という概念の規定如何によつて種々の考え方が生ずるのである。邦語の能力は含みの多い言葉であつて、単に発達の現段階において發揮することが出来た力、即ち何等かの測定手段たとえば作業の量や程度によつて測定された力即ち **Ability** を意味するだけでなく、更に訓練を加え最適の条件を与えたならば将来到達できるであろうと予想される可能性 **Capability** の意味まで含まれている。“彼は能力はあるのだが、どうも……” というような使い方はこのことを意味している。能力概念の規定のあいまいさが常に議論を紛らわしてしまうのである。我々の立場では一応、能力を操作的意味をもつ **Ability** に限定して考えているが、この意味においてもなお上述の社会性のカテゴリーが、それぞれ独立の成分的意義を有しているかが疑問に思われる。生活指導上の観点や、常識的基準から社会性の成分を設定することは、実際問題として妥当な方法と思うが、テスト構成の際にこれを吟味しないまま項目群の代表概念として用いることは、測定結果の利用を狭めることになる。即ちかくかくのテストによつてこのような指数が得られたこと、或いはそれぞれのカテゴリーにおける到達能力はかくかくであるというに止まり、その総合的結果の値はそれ以上解釈しようがないことになる。

この点から我々の従来の研究成果を吟味しようと思うのであるが、社会性の成分となるカテゴリーはどのようなものが妥当であり、また発達的に見てこれらの成分がどのように変動してくるものが当面の問題である。また従来用いて来た社会性発達テストの各項目が社会性のいかなる象面を測定しているかを明らかにすることも本研究の課題である。

Ⅱ 使用したテストについて

本研究において因子分析の対象として選んだテストは以下に掲げる社会性発達テストである。このテストは我々¹⁾の共同研究の成果として生れたものであり、まだ一般には公開されていないが、群馬大学及び京都大学において教育相談等において実用化されているものである。テストの性質を明らかにするために、これに至るまでの研究経過の概要を述べてみたい。

a 初期の研究の概要

我々の当初の研究目的は中学校小学校幼稚園の児童生徒について、社会性を客観的数値をもつ尺度で測定する手段を考案することであつた。我々の立場では社会性を構成するいくつかの能力群を仮定することをせず、むしろ一般知能に対応するような一般社会性を想定し次

(1) この研究は国沢博、内山喜久雄及筆者の共同研究として群馬大学において発足した。この研究に対し昭和25、26年度に文部省科学研究費が交付された。この研究には松沢清、中川長、野口幸雄等が協力した。

の3仮設のもとに研究を進めたのである。即ち(1)社会性の測定は一般知能測定と同じ形式たとえばビネー法の如き問題尺度で測定することが可能であろう。(2)そしてこの問題尺度を構成するにはいくつかの代表的アイテムを用意すれば足りるのである。(3)これらの代表的アイテムの一つ一つは必ずしも社会性として価値付けられているものと限る必要はなからう。この三つの仮設であるが(1)(2)については現行ビネー式知能テストが特定の限られた問題で構成され、しかもその結果が他の知的能力をも予言し得ることから一応類推的な仮説として承認されるであろう。(3)については若干説明を加える必要がある。幼児における排便の自立、用箸運動の完成というような能力は生活能力の獲得という意味で社会性の成分とされているものであるが、これに対し排便や用箸は社会的活動ではないという意味の異論が行われる。かりにこの異論を受け入れるとしても、これだけで社会性発達テストの問題から排便や用箸を除外せよということにはならない。むしろこのような能力の完成は明瞭にとらえられやすいものであるから、もしこれらの能力と他の測定しにくい社会的成熟との間に高い相関があるとしたら、テスト作成の技巧上、このようなアイテムを利用すべきだと考えた。同様の考えで所謂望ましくない行動もそれが一定の社会的成熟のメルクマールになるものであつたら発達テストのアイテムとして役立つことになる。

このような立場で日本の児童・生徒の、ある年令に特有の傾向、ある年令になつて大部分の子供が到達するような社会的能力、ある年令になつて大部分の子供から消え去る未発達の傾向等についてアイテム蒐集を行つた。この蒐集は我々研究者と経験の深い教師との座談会及び教師と生徒との座談会等で行われた。これらのアイテムを一覧表にすると第1表のようになる。当初の尺度構成にはこれが資料となつたのであるが、この中1/3はテストに使用するものとして適当ではなかつた。即ち第1表に基いて作成された質問項目112であつたが、そのうち34項目はわれわれの期待したような結果、即ち年令と共に発達するという傾向は見られなかつた。このことは質問形式の設定技術のためか、或いはこれらの項目が社会的成熟によつて生じてくる能力ではなくしつけの如き環境的条件や気質の如き個体的条件の影響を受けるためかは十分に検討できなかつた。然し第1表の項目は児童生徒を取扱う教師が行動発達の基準として考えていたものとして今後尚参考になると思われるのでそのまま記載しておく。さてこの34項目を除外した78項目が当初のスケールであつた。このスケールによる測定結果については既に発表²⁾したので詳述は避けるが、大体われわれの予期した成績が得られた。即ちこのテストの結果は、極めて漠然と考えられていた社会性の発達程度を指数化することに成功し、その数値も妥当なものであると認められた。

(2) 児童心理と精神衛生 No 13, 1952

第1表 項目選定の基礎となつた能力表

3～4才・	{ 靴がはける, 新聞をとつて来る, 鼻をかむ, 箸の使用, 持物を他人に貸す, 他人へのサー ビス(年下の子供の世話をやく), 手を洗う, パンツをはく, 近所隣へ一人でいける。
4～5才・	{ 排便自立, 上衣をきて前のボタンをかける, 紐むすび, ボールの上手投, 鉛筆クレオンの 使用, 交友のえり好み, 新しい仲間に対する関心の表示, 幼児語がぬける
5～6才・	{ 双六カルタ等をする, 時々寝具をかたづけける, 庭そうじをする, ジャンケンを盛にする, 小さな怪我を自分で手当する, グループ遊びの増加, 団体的秩序, 1列に並べる
6～7才・	{ 鉛筆が削れる, 1軒位独りで行ける, 風呂に一人で入る, 交通規則を守れる, 困難に直面 すると援助を求める, 友人訪問への関心, 食卓の片付け, 箸で豆をはさむ, 自分で爪を切 る, 告口が盛んである,
7～8才・	{ マッチ点火, サンタクロースの話の否定, 教科書以外の読書, 泣くのをかくす, 冗談の識 別, 恐い話しをよるこび互におどかし合う, 炭火をおこしたり薪を燃やす, 雨戸の開閉と 室掃除
8～9才・	{ 時計を分までよむ, 伝言の正確, 寝具をたたむ, 遊戯のさい中ベルが鳴ると直に止める事 が出来ると, 他人の意見をきく, 細字をかける, 黙読
9～10才・	{ 将棋トランプ五目ならべ, 敬語の使用, 留守番, 年長者の批判, 物の蒐集, 他人の身体的 欠陥への関心
10～11才・	{ 手紙のやり取り, 報酬のある仕事を求める, 広告を見て自分で注文する, 自分達で規則を 作つて遊ぶ, 1人の旅行, ユーモアの理解, 子供新聞の愛読, あだ名が盛んになる
11～12才・	{ 新聞を読む, 司会, 財産自慢等を嘲笑する, 大人の模倣が始まる(青年期的な), 蔭口を 意識して言う
12～13才・	{ 個人的集团的に競争意識が高まる, 収入を得るための仕事を考える, 親友を意識的に求め 始める, 正義感, 物を買う時一応経済を考えるが自制は出来ない, 身につけているものへ の関心, 同性愛傾向, 腕力のきはんを脱しはじめる, 親の目から離れようとする傾向, 指 図への反感, 家事を手伝わない事に対する申しわけなさを感じる, 自分のものぐさまぬけ 等の自覚
13～14才・	{ おしやれになる, 経済的自制, 小さな怪我に大きなほうたい, 小金額を馬鹿らしく感ず る, 友人間の手紙の交換, 皮肉, 伝染病恐怖, 人間関係への関心, 異性への反撥, 協力の 自覚, 秘密を大切にす, 顕揚慾, 変つた服装, 執念増加, クラブ活動の選択傾向
14～15才・	{ 悩みを親友と語り合う, 家の計画への参加, 不正に対する潔癖, 失敗の自責傾向, 職業選 択, 大人との応接, 教師親への批判, 異性との話しが円滑にやれる, 身体への関心, 集団 保障意識, 小さい子供の世話はやるが下級生との交際を馬鹿らしく考える, 排他的意識

b 改訂されたスケールの概要

本研究に用いたスケールは其後の改訂³⁾によるものであるが, 初期のスケールに多数の項目を追加し176項目を用意しそれぞれ通過率を測定し, 通過率の上で発達傾向の認められるもの115項目を残した。更にこの中から4才～7才級48項目, 8才～15才級48項目を選定し

(3) この改訂は中川長の労に負うところ多大であつた。

て作製したのが第Ⅱ表のスケールである。このスケールで残念なのはきわめて顕著な発達のメルクマールも通過率の点で除外せざるを得なかつたことである⁴⁾。

このスケールの使用法はビネー式知能検査法に準じ問題尺度から社会的成熟年令 (S. A.) を求めるものであるが、根本的相違は被測定者がその場で当該問題の実際的解決を行うのではなく、日頃の行動観察を通じて第三者がその合否を判断したり、自己観察に基いて生徒自身が問題に答える点である。通常園児及び学童にあつては教師または保護者が児童観察の結果を問題毎に答える仕組になつて居り、中学生にあつては自己診断を求めている。それぞれ4判断即ち肯定(よくできる, やつている等) 疑問的肯定(大体できる, 多分やつている等) 疑問的否定(ほとんどできない, たぶんやらない等) 否定(全くできない, やつていない等)のうち前2者を合格, 後2者を不合格とする。S. A. の算出は4~7才級では合格した1問が1ヶ月, 8~15才級では合格した1問が2ヶ月に相当するから合格した問題数を月数に換算して求める。なほ被験児童にとつてあまりやさしい段階の問題は調査をやらずに全部合格とすることはビネー法の場合と全く同様である。社会性発達指数の算出は暦年令との関係式即ち $S. Q. = S. A. \div C. A. \times 100$ で求められる。

このテストの妥当性も其後検討されて居り⁵⁾, 実際に用いられて役立つものと信じている。即ち社会的な発達の概況を知るためには簡便なスケールであつて, 知能テストと併せ用いて診断的価値がある。ただしこのテストには各問共厳密な条件規定を避けているので信頼度は若干低いと考えられる。即ちこの形式で測定されるものは直接的な被験者の社会性の発達そのものではなく, 第三者または本人によつて評定された結果であるから, 多分に評定者の個人的条件が参与しやすい。この種のテストは如何に厳密な条件で標準化されようとも実地に用いられる時は多義的な条件が混入する。そこでわれわれはむしろ漠然たる質問項目を用意して多義的な条件をそのままの形で標準化することにした。この事情は後述のように分析された因子の解釈を困難にしている一つの条件になつて居ると思われる。

(4) 一過性の現象などがこれで, たとえば中学2年において「独りで居たくなつたり, ロマンチックな空想にふけつたりす」る傾向が最大の値を示し, 3年になると減少してしまう。これは明瞭な成熟の特徴であるが, この種のテストでは除外せざるを得ない。

(5) 木暮茂夫と小沼正芳は群馬県下の10小学校児童約12,000名にこのテストを実施し種々の分析を試みたが, 教師の平常行つている社会性についてみた児童の5段階評定と, このテストによる各評定群のS. Q. との関係は表のごとくである。なお小沼はグループのリーダー, 知能のひくい子供, 友達と遊べない子供, いじわるな子供それぞれ各学年50名づつを抽出してこのテストの弁別性を明かにした。アイテムの性質についていうと Social-Relation, Self-Direction, Communication に関するものがこの弁別性を高めているようである。

S. Q.	M	S. D.
教師評定		
5	127.05	11.79
4	117.50	11.23
3	99.75	14.72
2	91.40	14.42
1	79.15	15.54

社会性発達テストの因子構成：倉石

第2表 研究に使用したスケール

- 4才 _____
1. () いつしよに遊ぶ友達を求める。
 2. () 「きょうの」「きょう」「あした」などという。
 3. () 5人位のグループでいつしよに遊べる。
 4. () 小さいものを可愛がる。
 5. () お店ごっこができる。
 6. () これという理由のないかんしゃくを起さない。(※起さない場合に○を記入)
 7. () 行きなれた所なら1キロの所へ1人で行ける。
 8. () 監督下の遊びの際に並んで自分の番がまてる。
 9. () 1人で着物が全部きられる。
 10. () 自分の年が口で答えられる。
 11. () 云われなくとも毎朝1人で顔を洗う。
 12. () 云われれば食事の片付けをする。
- 5才 _____
13. () じゃんけんをする。
 14. () 箸で大豆がはさめる。
 15. () よろこびを言葉で表現する。
 16. () 幼児語(おちやかな, ちこうき, とと等)を使わない。
 17. () ボールを上手投げで投げる。
 18. () 交通規則が守れる。
 19. () かんたんなまりつきができる。
 20. () 小さい声でないしよ話ができる。
 21. () ボール紙をはさみで切れる。
 22. () 相手の話に注意を傾けてきくことができる。
 23. () すり傷くらいでは泣かない。
 24. () 先のことを予想して心配する。
- 6才 _____
25. () 双六やかるとができる。
 26. () お友達と本や鉛筆の貸借ができる。
 27. () 助けられないで就寝する。
 28. () 伝言を間違いなくやる。
29. () すり傷くらいの怪我なら自分で赤チンキやヨードチンキをつける。
30. () 云われなくとも顔をきれいにすることに気がつく。
31. () マッチをつけることができる。
32. () 鉛筆がけづれる。
33. () 小さい怪我なら自分でほうたいできる。
34. () 自分でつめをきる。
35. () 「今年の夏」とか「去年の夏」とかがわかる
36. () 試験の結果や成績に無とん着でなくなる。
- 7才 _____
37. () 子供向き連続放送劇(例えば笛吹童子のような)をきく。
 38. () 1人で留守番をまかせられる。
 39. () 見てきた映画について断片的に話せる。
 40. () 簡単なゲーム(ドッチボールのような)ができる。
 41. () 大人の新聞のマンガを読む。
 42. () なぐり合いでない方法でけんかできる。
 43. () 黙読ができる。
 44. () 人に云われなくても自分の本が散らばっていれば整頓する。
 45. () 比較的目につきやすいものをあげて、学校から自分の家までの道順を教えられる。
 46. () 学校をはさんで自分の家とは反対の方向にある同級生の家へ遊びに行く。
 47. () 7, 8人いつしよになり3時間くらい続けて遊ぶことができる。
 48. () 炭火をおこしたり, たきぎを燃やしたりできる。
- 8才 _____
49. () 自分の判断で善悪をきめる。
 50. () 自分の健康に自ら気をつける。

京都大学教育学部紀要 Ⅲ

51. () 自分の着物やハンカチの汚れを気にする。
52. () 自分の家から学校までの道順を図に書いて教えられる。
53. () 自分たちで規則をつくったり、やり方を変えたりして遊べる。
54. () 200 円位の買物が充分まかせられる。
- 9才 _____
55. () いつもいっしょに遊んだり、勉強したり、行動を共にする友達を欲する。
56. () お化や桃太郎の話(実在)を否定する。
57. () あやまちを犯した後、正しく自分の行為を批判できる。
58. () 1 里くらいの所へ 1 人でお使いに行ける。
59. () 見てきた映画のストーリーが話せる。
60. () 1 人で手紙が書ける。
- 10才 _____
61. () 将棋、五目ならべ、トランプなどをする。
62. () 他人から云われた冗談を冗談として理解できる。
63. () 1 人で乗物に乗れる。
64. () 他人の立場が理解できる。
65. () 自分の学級に対する意識をもつ。
66. () 2 寸釘が打ちこめる。(男)
3 寸のお手玉ができる。(女)
- 11才 _____
67. () 目上の人に対する言葉と友達との言葉とを使い分けする。
68. () すべり台にのりたがらない(※のりたがらない場合に○を記入)
69. () 簡単な話合いの司会ができる。
70. () 理くつに合わないことに対して批判的な態度をとる。
71. () 手紙のやりとりをする。
72. () ラジオのニュースを聞く。
- 12才 _____
73. () 自分を本当に理解してくれる友を強く求める。
74. () 自分だけの部屋をもちたいと思う。
75. () 暗闇をこわがらない。
76. () 大人の行動を批判的にみる。
77. () 何か働いて自分だけのお金を得たいと思う。
78. () 新聞のスポーツ面などを読む。
- 13才 _____
79. () 新聞の社会面をみる。
80. () 自分のものは自分でせんとくして買う。
81. () 職業せんとくについて考える。
82. () 道理に合わない叱りに対して反抗する。
83. () 大人に対して理くつをいうことがある。
84. () 幾人かの仲間と数日の旅行やキャンプ生活ができる。
- 14才 _____
85. () 服装のスタイルを気にする。
86. () 教師のあだなをいう。
87. () 鬼ごっこをしなくなる。
88. () 1 人で乗物を用いて旅行できる。
89. () 年下の小さな子供といっしょになつて遊ばない。
90. () 為替・振替を使つてお金が送れる。
- 15才 _____
91. () 親の過度な干渉や小言に対して反抗する。
92. () 大人と応対できる。
93. () 社会問題に対して関心を示す。
94. () 新聞の政治面を読む。
95. () 時と所により、1 人前の大人として扱ってもらいたいことを強くあらわす。
96. () 同じ年頃の特定の異性に関心を示す。
- 16才 _____

Ⅲ 方法及手続

先に問題にしたように社会性発達テストの各項目が社会性のどのような象面を測定しているかを明らかにするため、テストの内部相関を調べ、且因子構成にさぐりを入れて見ることにする。

(a) 資 料

全検査項目を1～24, 31～54, 55～72, 73～96の4群に大別し、これらの項目群をそれぞれ5才児, 7才児, 10才児, 12才児に対する社会性発達テストバッテリーとし各年令100名づつを抽出した。被験者は群馬県下の■児及び小学校児童であり多数校の資料から無作為抽出を行い⁶⁾、男女ほぼ同数である。これらの資料をもとにして肯定及び疑問的肯定を(+), 否定及び疑問的否定を(-)とし、各項目群毎に2×2分割表を作成した。

(b) 分析の方法⁷⁾

内部相関は2×2分割表より求めた ϕ によつて示され、その相関行列表は第3表～第6表である。

因子分析を行うに際し問題となつたのは如何なる方法により分析を進めるかということであつた。社会性の発達の如き未開拓な分野においては階層的秩序(hierarchical order)を仮定する方法は望ましくないと思われるので、各項目群毎にThurstoneの完全重心法(Complete centroid method)を用いて分析することにした。主対角線値には相関行列の各列の最大絶対値を挿入し、Guilford, J. P. や Thomson, G. H. の意見を参考にし相関係数の信頼度による方法、Ledyard Tuckers Criterion および Guilford Lacey's Criterion により因子数を決定した。上記の方法によつて求められた重心因子行列(Centroid factor matrix)をtwo-by-two rotation methodによつて軸回転を行い直交性単純構造(Orthogonal simple structure)を示すように分析したのが第7表～第10表である。

(6) 木暮, 小沼の資料より抽出した。

(7) 因子分析は奥野茂夫が担当し住田幸次郎がこれに協力した。

第3表 内部相関表(φ)
C.A. 5.0~5.11 N=100

項目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
1		.30	.66	.15	.00	-.01	.12	-.10	.26	.23	.08	.17	.39	.03	.39	.09	.29	.21	.10	.32	.15	.05	.10	.09
2	.30		.14	-.12	.10	.02	-.27	0	.26	.11	.02	.11	.24	.09	.29	0	.11	.14	.14	.23	.15	.06	.27	.18
3	.66	.14		.26	.13	-.06	.03	.14	.08	.48	.25	.18	.31	.15	.51	-.04	.25	.34	.24	.26	.30	.21	.09	.17
4	.15	-.12	.26		.17	.06	-.18	.32	.04	.28	.22	-.06	.14	.01	.15	-.09	-.07	.17	.22	.17	.14	.07	-.30	.23
5	.00	.10	.13	.17		-.06	.05	-.05	.03	.16	.16	.18	.02	.01	.27	.02	-.01	.44	.38	.47	.26	.26	-.06	.23
6	-.01	.02	-.06	.06	-.06		.12	.31	.12	-.19	-.06	.11	.03	.03	.06	.27	.04	-.17	-.14	-.19	.05	.09	.05	.08
7	.12	-.27	.03	-.18	.05	.12		.09	.17	.06	.12	.16	.04	.20	.27	.09	.02	.14	-.13	.06	.21	.07	.04	-.15
8	-.10	0	.14	.32	-.05	.31	.09		-.11	.17	.03	.08	.05	.14	.05	-.04	-.05	.06	.06	.25	.08	.21	-.03	.10
9	.26	.26	.08	.04	.03	.12	.17	.11		.11	.11	.27	.36	.17	.22	.17	-.07	.16	.25	.25	.16	.23	.21	.03
10	.23	.11	.48	.28	.16	-.19	.06	.17	.11		.40	.27	.28	.04	-.07	-.07	-.09	.27	.08	.32	.10	.15	.05	.77
11	.08	.02	.25	.22	.16	-.06	.12	.03	.11	.40		.47	.12	.14	.37	.22	-.04	.22	.22	.13	.10	.25	-.02	.07
12	.12	.11	.18	-.06	.18	.11	.16	.08	.27	.27	.47		.05	.04	.32	-.10	.21	.11	.20	.21	.03	.18	.02	.08
13	.39	.24	.31	.14	.02	.08	.04	.05	.36	.28	.12	.05		.26	.14	.03	.03	.21	.37	.16	.11	.12	.21	.17
14	.03	.09	.15	.01	.01	.03	.20	.14	.17	.04	.14	.04	.06		.06	.22	.03	.22	.36	-.04	.36	.20	.08	.28
15	.39	.29	.51	.15	.27	.06	.27	.05	.22	-.07	.37	.32	.14	.06		-.07	.24	.30	.26	.41	.33	.19	.22	.14
16	.09	0	-.04	-.09	.02	.27	.09	-.04	.17	-.07	.22	-.10	.03	.22	.07		.20	.34	.34	.20	.12	.09	-.10	.03
17	.29	.11	.25	-.07	-.01	.04	.02	-.05	-.07	-.09	-.04	.21	.03	.03	.24	.20		.06	.19	.16	.15	.19	.25	.18
18	.21	.14	.34	.17	.44	-.17	.14	.06	.16	.27	.22	.11	.21	.22	.30	.34	.06		.42	.38	.27	.19	.07	.28
19	.10	.14	.24	.22	.38	-.14	.13	.06	.25	.08	.22	.20	.37	.36	.26	.34	.19	.42		.19	.23	.10	.07	.37
20	.32	.23	.26	.17	.47	-.19	.06	.25	.25	.32	-.13	.21	.16	-.04	.41	.20	.16	.38	.19		.22	.26	-.04	.32
21	.15	.15	.30	.14	.26	.05	.21	.08	.16	.10	.10	.03	.11	.36	.33	.12	.15	.27	.23	.22		.66	-.53	.29
22	.05	.06	.21	.07	.26	.09	.07	.21	.23	.15	.25	.18	.12	.20	.19	.09	.19	.17	.10	.26	-.66		.09	.17
23	.10	.27	.09	-.30	-.06	.05	.04	-.05	.21	.05	-.02	.02	.21	.08	.22	-.10	.25	.07	.07	-.04	-.53	.09		.17
24	.09	.18	.17	.23	.23	.08	-.15	.10	.08	.77	.07	-.08	.17	.28	.14	.03	.18	.28	.37	.32	.29	.17		.17

関東大学経済学系調査報告書

社会性発達テストの因子構成：倉石

第4表 内部相関表(φ)
C.A. 7.0~7.11 N=100

項目番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
31	.17	.46	.27	.04	.14	.26	.07	.14	.24	.03	.21	.05	.09	.02	.15	.16	.19	.07	.18	.03	.03	.08	.14	
32	.17	.28	.18	.26	.17	.10	.09	.0	.26	.19	.21	.21	.26	.02	.10	.17	.10	.05	.14	.16	.08	.01	.07	
33	.46	.28	.33	.20	.18	.29	.11	.19	.29	.06	.27	.19	.26	.05	.0	.06	.27	.17	.22	.22	.10	.04	.15	
34	.27	.18	.33	.47	.34	.19	.13	.33	.33	.30	.55	.24	.31	.20	.06	.08	.36	.20	.25	.23	.13	.02	.26	
35	.04	.26	.20	.47	.39	.26	.16	.47	.38	.34	.44	.48	.38	.26	.17	.28	.35	.45	.41	.48	.30	.29	.34	
36	.14	.17	.18	.34	.49	.25	.20	.32	.33	.27	.35	.46	.35	.36	.35	.36	.28	.26	.43	.36	.29	.37	.28	
37	.26	.10	.29	.19	.26	.25	.31	.53	.40	.51	.36	.43	.27	.40	.28	.54	.30	.28	.24	.30	.23	.31	.22	
38	.07	.09	.11	.13	.16	.20	.31	.38	.25	.33	.17	.25	.18	.22	.28	.30	.30	.16	.20	.17	.10	.18	.31	
39	.14	.0	.19	.33	.47	.32	.53	.38	.26	.37	.42	.41	.31	.43	.24	.21	.32	.38	.20	.23	.27	.31	.26	
40	.24	.26	.29	.33	.38	.33	.40	.25	.26	.58	.59	.53	.24	.30	.41	.33	.27	.32	.37	.22	.33	.27	.27	
41	.03	.19	.06	.30	.34	.77	.51	.33	.37	.53	.47	.53	.31	.44	.39	.37	.34	.34	.22	.22	.41	.40	.44	
42	.21	.21	.27	.55	.44	.35	.36	.17	.42	.59	.47	.50	.31	.22	.25	.36	.31	.31	.26	.26	.19	.18	.28	
43	.05	.21	.19	.24	.48	.46	.43	.25	.41	.53	.53	.50	.38	.51	.39	.41	.49	.30	.26	.23	.34	.32	.32	
44	.09	.26	.26	.31	.38	.35	.27	.18	.31	.24	.31	.38	.34	.34	.16	.22	.32	.28	.44	.40	.30	.11	.28	
45	.02	.02	.05	.20	.26	.38	.40	.22	.43	.30	.44	.22	.51	.34	.43	.45	.31	.43	.26	.23	.49	.41	.31	
46	.15	.10	.0	.06	.17	.35	.28	.24	.41	.39	.25	.39	.16	.43	.45	.25	.38	.34	.13	.33	.44	.44	.44	
47	.16	.17	.06	.08	.28	.36	.34	.30	.21	.33	.37	.36	.41	.22	.45	.45	.51	.44	.32	.27	.44	.47	.42	
48	.19	.10	.27	.36	.35	.28	.30	.30	.32	.27	.34	.31	.49	.32	.31	.25	.51	.38	.30	.32	.28	.25	.42	
49	.07	.05	.17	.20	.45	.26	.28	.16	.38	.32	.34	.31	.30	.28	.43	.38	.44	.38	.56	.50	.50	.48	.48	
50	.18	.14	.22	.25	.41	.43	.24	.20	.20	.37	.22	.26	.26	.44	.26	.34	.32	.30	.56	.62	.41	.31	.32	
51	.03	.16	.22	.23	.48	.36	.30	.17	.23	.22	.22	.26	.23	.40	.23	.13	.27	.32	.50	.62	.32	.09	.34	
52	.03	.08	.10	.13	.30	.29	.23	.10	.27	.33	.41	.19	.34	.30	.49	.33	.44	.28	.50	.41	.32	.55	.34	
53	.08	.01	.04	.02	.29	.37	.31	.18	.31	.27	.40	.18	.32	.11	.41	.44	.47	.25	.48	.31	.09	.55	.34	
54	.14	.07	.15	.26	.34	.28	.22	.31	.26	.27	.44	.28	.32	.28	.31	.44	.42	.42	.48	.32	.34	.34	.34	

第5表 内部相関表(φ)

C. A. 10.0~10.11 N=100

項	目	番	号	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
55	いつもいっしょに遊んだり、勉強したり、行動を共にする友産を敬する			.17	.42	.27	.10	.33	.29	.27	.42	.44	.32	.20	.18	.29	.38	.24	.37	.42	
56	お化や桃太郎の話(実在)を否定する			.17	.26	.39	.40	.34	.22	.40	.31	.32	.32	.39	.32	.26	.33	.28	.32	.28	
57	あやまちを犯した後、正しく自分の行為を批判できる			.42	.26	.44	.38	.29	.24	.58	.34	.62	.44	.10	.33	.33	.34	.34	.42	.22	
58	1里くらの所へ1人でお使いに行ける			.27	.39	.44	.30	.18	.38	.46	.38	.41	.34	.28	.26	.36	.37	.30	.30	.36	
59	見てきた映画のストーリーが話せる			.10	.40	.38	.30	.03	.20	.44	.32	.28	.44	.17	.27	.29	.31	.38	.34	.32	
60	1人で手紙が書ける			.33	.34	.29	.18	.03	.25	.29	.25	.37	.49	.16	.21	.13	.42	.27	.37	.19	
61	将棋、五目ならべ、トランプなどをやる			.29	.22	.24	.38	.20	.25	.36	.17	.21	.29	.18	.14	.27	.34	.31	.18	.25	
62	他人から云われた冗談を冗談として理解できる			.27	.40	.58	.46	.44	.29	.36	.40	.47	.54	.11	.37	.37	.38	.27	.19	.15	
63	1人で乗物に乗れる			.42	.31	.34	.38	.32	.25	.17	.40	.33	.34	.36	.36	.25	.38	.42	.42	.35	
64	他人の立場が理解できる			.44	.32	.62	.41	.28	.37	.21	.47	.33	.62	.14	.38	.27	.48	.35	.30	.14	
65	自分の学級に対する意識をもつ			.32	.32	.44	.34	.44	.49	.54	.34	.62	.20	.38	.28	.47	.43	.42	.23	.23	
66	2寸釘が打ちこめる(男) 3つのお手玉ができる(女)			.20	.39	.10	.28	.17	.16	.18	.11	.36	.14	.20	.34	.22	.32	.26	.21	.14	
67	目上の人に対する言葉と友達との言葉とを使い分けする			.18	.32	.33	.26	.27	.21	.14	.37	.36	.38	.38	.34	.36	.40	.30	.34	.14	
68	すべり台にのりたがらない			.29	.26	.33	.20	.29	.13	.27	.37	.25	.27	.28	.22	.36	.23	.25	.13	.32	
69	簡単な話台の司会ができる			.38	.33	.34	.36	.31	.42	.34	.38	.38	.48	.47	.32	.40	.23	.50	.53	.32	
70	理くつに合わせることに対して批判的な態度をとる			.24	.28	.34	.37	.38	.27	.31	.27	.42	.35	.43	.26	.30	.25	.50	.57	.49	
71	手紙のやりとりをする			.37	.32	.42	.30	.34	.37	.18	.19	.42	.30	.42	.21	.34	.13	.53	.57	.30	
72	ラジオのニュースを聞く			.42	.28	.22	.36	.32	.19	.25	.15	.35	.14	.23	.14	.14	.32	.32	.49	.30	

第6表 内部相関表(φ)
C.A. 12.0~12.11 N=100

項目番号	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
73		.42	.15	.31	.23	.22	.39	.15	.32	.17	-.02	.42	.27	-.05	.17	.15	-.04	.03	.20	.12	.24	.26	.17	.17
74	自分を本当に理解してくれる友を強く求める	.42		.23	.21	.36	.30	.26	.18	.24	.25	.40	.16	.08	.30	.17	-.06	.10	-.02	.30	.07	.0	.16	.09
75	自分だけの部屋をもちたいと思う	.15	.23		.25	.37	.39	.27	.11	.08	.24	.29	-.03	.0	.24	.43	.02	-.01	.04	.16	.23	.0	.14	.04
76	大人の行動を批判的にみる	.31	.21	.25		.17	.02	.17	.22	.19	.26	.33	.21	.24	.06	.11	.05	.02	-.04	.16	.13	.17	.05	.21
77	何か働いて自分のお金を得たいと思う	.23	.36	.37	.17		.22	.30	.01	.30	-.07	.05	.33	.11	-.12	.03	.34	-.00	.05	.12	.15	.0	.12	.11
78	新聞のスポーツ面などを読む	.22	.30	.39	.02	.22		.46	-.24	.08	.17	.22	.16	.03	.20	.03	.22	.02	-.06	.10	.17	.19	.16	.17
79	新聞の社会面をみる	.39	.26	.27	.17	.30	.46		-.08	.24	.08	.11	.25	.22	.08	.13	.16	.02	.03	.06	.18	.32	.34	.20
80	自分のものは自分でせたくして買う	.15	.18	.11	.22	-.01	-.24	.08		.06	.0	.16	.25	.28	.08	.16	-.17	.10	-.01	.64	.03	.23	.17	.09
81	職業せんたくについて考える	.32	.24	.08	.19	.30	.08	.24	.06		.15	-.09	.22	.09	.47	.18	.13	.12	.23	-.02	.18	.34	.21	.08
82	道理に合わない叱りに対して反抗する	.17	.25	.24	.26	-.07	.17	.08	.0	.15		.43	.21	.32	.21	.18	.04	.02	.07	.43	.17	.06	.07	.23
83	大人に対して理くつをいうことがある	-.02	.21	.31	.33	.05	.22	.11	.16	-.09	.43		.17	.32	.24	.20	.19	.10	.17	.50	.18	-.25	.15	.23
84	幾人かの仲間と数日の旅行やキャンプ生活ができる	.42	.40	.29	.21	.33	.16	.25	.25	.22	.21	.17		.22	.06	.48	.50	.20	.18	.26	.24	.10	.08	.19
85	服装のスタイルを気にする	.27	.16	-.03	.24	.11	.03	.22	.28	.09	.32	.22	.22		.04	.08	-.11	-.10	-.08	.10	.22	.05	.0	.09
86	教師のあだなをいう	-.05	.08	.0	.06	-.12	.25	.08	.08	.47	.21	.24	.06	.04		.0	.26	.08	.06	.42	.02	.06	.07	.21
87	鬼ごっこをしなくなる	.17	.30	.24	.11	.13	.03	.13	.16	.18	.18	.20	.48	.08	.0		.38	.11	.05	.31	.26	.08	.10	.14
88	一人で乗物を用いて旅行できろ	.15	.17	.43	.05	.34	.22	.16	.17	.13	.04	.19	.50	-.11	.26	.38		.13	.12	.10	.17	.11	.02	.08
89	年下の小さな子供といつしよになつて遊ばない	-.04	-.06	.02	.02	-.06	.02	.02	.10	.12	.02	.10	.20	-.10	.08	.11	.13	.06	.10	.04	.14	.06	.02	.06
90	為替、振替を使つてお金か送れる	.03	.10	.01	.04	.09	.06	.03	.01	.23	.07	.17	.18	.08	.06	.05	.12	.06	.02	-.10	.26	.26	.21	.06
91	親の過度な干渉や小言に対し、反対する	.20	-.02	.04	.16	.05	.10	.06	.64	-.02	.43	.50	.26	.10	.42	.31	.10	.10	.02	.24	.01	.08	.27	.10
92	大人と応対できる	.12	.30	.16	.13	.12	.17	.18	.03	.18	.17	.18	.24	.22	.02	.26	.17	.04	-.10	.24	.19	.20	.34	.13
93	社会問題に対して関心を示す	.24	.07	.23	.17	.15	.19	.32	.23	.34	.06	-.25	.10	.05	.06	.08	.11	.14	.26	.01	.19	.63	.48	.39
94	新聞の政治面をよむ	.26	.0	.0	.05	.0	.16	.34	.17	.21	.07	.15	.08	.0	.07	.10	.02	.06	.26	.08	.20	.63	.33	.27
95	時と所により、1人前の大人として扱ってもらいたいことを強くあらわす	.17	.16	.14	.21	-.12	.17	.20	.09	.08	.23	.23	.19	.09	.21	.14	.08	.02	.21	.27	.34	.48	.33	.35
96	同じ年頃の特定の異性に関心を示す	.17	.09	-.04	.06	-.11	.01	.14	.24	.11	.15	.07	.20	.24	.10	.09	.09	.06	.06	.10	.13	.39	.27	.35

Ⅵ 結果の考察

(a) 内部相関表について

第3表～第6表の内部相関表について概観されることは、5才児及び12才児においては各項目間に相当数の逆相関が見られるのに対し、7才児及び10才児ではほとんど例外なしに正の相関値が示されていることである。このことは単にバッテリーを構成しているアイテムの性質だけによるのではなく、児童の発達過程における教育訓練の影響が現われているのかも知れない。即ち幼稚園児においては非常に雑多な家庭環境やさまざまなしつけ方の影響などにより、社会性の個人差が大きいが、学校経験を増すに従いそれが徐々に訓練されて所謂小学生タイプという枠に統制されてくる。しかし上学年になるとこんどは別の意味で個性のタイプが分化しはじめてくる。勿論この資料が直接にそれを意味するという証明はできないが説明の一つの可能性として指摘しておきたい。

次に個々のアイテムの相関についていうならば概して作業能力に関するもの、項目番号というと9, 14, 17, 31, 32, 66, 90等は比較的他項目との相関が低く、同様に「小さいものを可愛がる」、「かんしやくをおこさない」、「かすり傷くらいでなかない」、「きものよごれを気にする」等発達的に形成される傾向でありながら同時に個性的傾向でもあるようなアイテムも比較的相関が低い。これに対して「司会ができる」というような項目は他のすべての項目と相関が高いことは社会性の総合的能力を代表する項目として注目すべきである。

逆相関を示す項目群、たとえば第3表(4)小さいものを可愛がるは(7)1キロ位ひとりで行ける、や(23)かすりきず位でなかない、と相反的であり、(6)かんしやくを起さない、が(8)並んでじゆん番がまてる、(16)幼児語がぬける、以外のすべての項目と無相関もしくは逆相関を示していることなど注目すべきであり、またこれについて妥当な解釈を加えることが可能であろう。この中で極端な数値を示しているのが(21)ボール紙をハサミで切れる、で(22)相手の話をきく(23)かすりきず位で泣かない、とそれぞれ -0.66 、 -0.53 という逆相関値が出ている。これは一寸説明がつきにくい。上学年第6表においては(80)買物における自主的選択が、それぞれ暗闇をこわがらない、新聞のスポーツ面や社会面への関心、乗物による単独旅行などと相反的であり、(83)大人に対して理屈をいうことが職業選択の関心や社会問題への関心などと相反的であることは興味深い数値である。内部相関表の細部について詳述することは紙面の都合で省略する。

社会性発達テストの因子構成：倉石

(b) 因子の解釈について

この研究は社会性発達テストのスケールを4に分断し、それぞれ異つた年齢群に実施したのであるから、実際は4種類のテストを4種類の年齢群に実施したことになる。同一テスト

第7表 直行因子行列

C. A. 5:0~5:11

項目 番号		I	II	III	IV	V	VI	共通性
1	いっしょに遊ぶ友達を求める	.02	.0	.0	-.02	.73	.23	.587
2	きのうきょうあしたなどという	.0	-.20	.20	-.13	.46	.10	.319
3	5人位のグループでいっしょに遊べる	.25	.19	-.04	-.14	.57	.38	.589
4	小さいものを可愛がる	.13	.05	.18	.06	-.18	.56	.401
5	お店ごっこができる	.60	-.15	.04	-.02	-.02	.10	.395
6	これという理由のないかんしゃくを起さない	-.11	.22	-.01	.41	.05	.03	.232
7	行きなれた所なら1キロの所へ1人で行ける	.11	.29	-.09	.33	-.08	-.18	.252
8	監督下の遊びの際に並んで自分の番がまてる	.07	.20	-.03	.31	-.14	.42	.338
9	1人で着物が全部さられる	.11	-.01	.08	.42	.39	.04	.349
10	自分の年が口で答えられる	.24	.31	.29	-.22	.04	.70	.778
11	云われなくとも毎朝1人で顔を洗う	.36	.55	.06	-.01	.10	-.06	.449
12	云われれば食事の片附けをする	.25	.42	.11	.01	.24	-.10	.319
13	じゃんけんをする	.11	.0	.06	.25	.40	.27	.311
14	箸で大豆がはさめる	.32	-.07	.03	.28	.03	-.01	.188
15	よるこびを言葉で表現する	.34	.21	-.07	-.01	.62	.01	.549
16	幼児語(おちやかな、ちこうき、とと等)を使わない	.34	-.12	-.02	.32	.01	-.18	.265
17	ボールを上手投げで投げる	.19	.02	.21	-.09	.32	-.11	.203
18	交通規則が守れる	.65	-.02	-.06	.08	.20	.14	.493
19	かんたんなまりつきができる	.59	.0	.05	.11	.25	.07	.418
20	小さい声でないしょ話ができる	.46	-.09	.13	.07	.27	.41	.483
21	ボール紙をはさみで切れる	.51	.06	-.71	-.13	.23	.09	.846
22	相手の話に注意を傾けてきくことができる	.16	.19	.59	.43	.0	.09	.603
23	すり傷くらいでは泣かない	-.15	-.02	.53	-.03	.37	-.16	.467
24	先のことを予想して心配する	.47	-.02	.42	-.14	.02	.55	.720

京都大学教育学部紀要 Ⅲ

第8表 直行因子行列

C. A. 7: 0~7: 11

項目 番号		I	II	III	IV	公通性
31	マッチをつけることができる	.01	.48	.04	.07	.237
32	鉛筆がけづれる	-.03	.16	-.05	.41	.197
33	小さい怪我なら自分でほうたいできる	0	.70	-.04	.12	.506
34	自分でつめをきる	.02	.45	-.01	.50	.453
35	「今年の夏」とか「去年の夏」とかがわかる	.29	.32	.13	.49	.444
36	試験の結果や成績に無とん 着でなくな	-.36	.18	.22	.38	.355
37	子供向き放送劇(例えば笛吹童子)をきく	.03	.39	.56	.17	.496
38	1人で留守番をまかせられる	.09	.11	.30	.28	.189
39	見てきた映画について断片的に話せる	.07	.44	.49	.17	.468
40	簡単なゲーム(ドッチボールのような)ができる	.08	.21	.45	.50	.503
41	大人の新聞のマンガをよむ	.11	.07	.60	.46	.589
42	なぐり合いでない方法でけん かきる	-.01	.31	.32	.58	.535
43	黙読ができる	.12	.15	.49	.52	.547
44	人に云われなくても自分の本が散らばつていれば整頓する	.27	.32	.07	.40	.340
45	比較的目につきやすいものをあげて学校から自分の家までの道順を教えられる	.35	.11	.57	.13	.476
46	校舎は自分で自分の家の反対の方向にある同級生の家へ遊びに行ける	.39	-.07	.47	.24	.436
47	7, 8人いつしよになり3時間くらい続けて遊ぶことが出来る	.45	.04	.44	.27	.471
48	炭火をおこしたりたきぎを燃やしたりできる	.28	.28	.23	.39	.362
49	自分の判断で善悪をきめる	.64	.24	.28	.12	.560
50	自分の健康に自ら気をつける	.67	.28	.02	.25	.590
51	自分の着物やハンカチの汚れを気にする	.52	.29	-.10	.37	.501
52	学校から自分の家までの道順を図にかいておしえられる	.55	.12	.41	.07	.490
53	自分たちで規則をつくつたり、や方を変えたりして遊べる	.46	.07	.56	-.05	.533
54	200円くらいの買物が充分まかせられる	.43	.13	.24	.34	.375

を異なる年齢群に実施し比較をすることはこの場合不可能であることは言うまでもない。従つて第7表~第10表に示される因子の解釈はそれぞれ4種のテストの因子構成の解釈として別々になされるべきであつて、にわかになその発達的な意味付けをすることは性急であろう。そ

社会性発達テストの因子構成：倉石

ここでまずテスト毎に因子を吟味しテストの内容を考慮しながら発達の意義について論及することにした。しかし乍ら第7表以下に示されている数字は因子の性質を明かにするのはやや明確さを欠いている。この原因は因子分析の操作にあるのではなく原資料の多義性の故であると考えられる。このテスト結果は被験者の行動そのものではなく、第三者のそれに対する評価結果である。勿論行動とその評価結果の著しい対応はあるにせよ、そこに評価者の個人的条件も混入してくることは防ぎ得ない。このような不明確な資料から分析された因子の解釈を決定的な表現をもつてするのは当を得ないことであるが、一つの試論として可能なかぎり解釈を試みて見たい。

第7表～第10表のうち、最後の12才児に関するものが、おぼろげ乍ら因子の解釈が成立しそ

第9表 直行因子行列

C. A. 10:0~10:11

項目番号	I	II	III	IV	共通性
55	.40	.47	.09	.20	.431
56	.14	.01	.28	.54	.390
57	.0	.48	.33	.44	.539
58	.23	.29	.09	.53	.425
59	.10	-.02	.31	.53	.387
60	.26	.37	.45	.05	.410
61	.26	.37	.00	.28	.283
62	-.14	.43	.26	.62	.658
63	.37	.10	.15	.50	.418
64	.03	.51	.48	.34	.610
65	.14	.40	.59	.31	.625
66	.27	-.09	.04	.47	.305
67	.09	.04	.30	.51	.359
68	.13	.23	.00	.49	.309
69	.43	.21	.48	.29	.543
70	.57	.06	.34	.33	.551
71	.48	.01	.52	.24	.554
72	.59	.19	-.05	.29	.467

第10表 直行因子行列

C.A.12:0~12:11

項目 番号		I	II	III	IV	V	VI	共通性
73	自分を本当に理解してくれる友を求める	-.01	.09	.11	.57	.32	.18	.480
74	自分だけの部屋をもちたいと思う	.09	-.01	.26	.51	.29	.12	.434
75	暗闇をこわがらない	-.03	.06	.54	.09	.02	.39	.457
76	大人の行動を批判的にみる	.25	.02	.09	.36	.04	.02	.203
77	何か働いて自分だけのお金を得たいと思う	.01	-.11	.38	.25	.40	.14	.399
78	新聞のスポーツ面などを読む	-.13	.10	.25	.05	.06	.63	.492
79	新聞の社会面をみる	-.13	.20	.16	.33	.21	.46	.447
80	自分のものは自分でせんとくして買う	.53	.11	-.14	.29	.08	-.18	.436
81	職業せんとくについて考える	.13	.39	.03	.21	.40	.35	.497
82	道理の合わない叱りに対して反抗する	.35	-.01	.07	.23	-.3	.40	.357
83	大人に対して理くつをいうことがある	.59	-.13	.17	.03	-.08	.48	.632
84	幾人かの仲間と数日の旅行やキャンプ生活ができる	.29	.16	.61	.26	.30	.03	.640
85	服装のスタイルを気にする	.28	-.14	-.10	.53	-.03	.12	.404
86	教師のあだなをいう	.42	.21	-.08	-.18	.20	.27	.372
87	鬼ごっこをしなくなる	.25	.16	.51	.17	.04	-.08	.385
88	1人で乗物を用いて旅行できる	.12	.23	.69	-.12	.13	.06	.578
89	年下の小さな子供といつしよになつて遊ばない	.15	.22	.10	.17	.01	-.08	.116
90	為替、振替を使つてお金が送れる	.07	.32	-.02	-.16	.22	.09	.190
91	親の過度な干渉に対して反抗する	.84	.04	.04	-.01	.02	.21	.753
92	大人と応対できる	.14	.16	.23	.33	-.12	.13	.238
93	社会問題に対して関心を示す	-.15	.82	-.07	.29	.04	.16	.811
94	新聞の政治面をよむ	.01	.60	-.13	.14	.13	.25	.476
95	時と所により、1人前の大人として扱つてもらいたいことを強くあらわす	.21	.52	.03	.24	.29	.25	.520
96	同じ年頃の特定の異性に関心を示す	.17	.41	-.04	.27	-.15	-.01	.294

うであるが他の3表については非常に解釈が困難である。

先5つ才見の場合についていうと第I因子は社会知能の一般因子であるのか、お店ごっこ、大豆はさみ、交通規則、まりつき、内しよ話等が最も大きな負荷量を示す所から遊びに関する

能力であるかはいずれとも解釈がつかない。第Ⅱ因子は洗面，食事片付等に最も大きく負荷し其他Ⅰキロ位行ける，順番が待てる，年をいう，かんしゃくを起さない，言葉で喜びを表現する，他人の話に注意する等に関係し其他には殆んど関係ない所から推察すると「しつけ」の因子とでも名付けるべきように思われる。第Ⅲ因子はかすり傷位で泣かないような個性的因子のようであるが不明としておいた方が無難であろう。第Ⅳ因子は比較的明瞭であつて自己統制の因子と思われる。第Ⅴ因子は友達を求める，一緒に遊べる，ジャンケン，喜びを言葉で表現する，ボールの上手投等に関係深い因子であるが社交能力（遊びの能力）を意味するものかどうか断言できない。第Ⅵ因子は小さいものを可愛がる，並んで順番がまてる，年が言える，内しよ話ができる，先の心配をする等が最も大きく関係し其他友達を求める，ジャンケン，交通規則等にも若干負荷されている点で集団活動の能力かと思われる。Doll の概念との対応関係ははつきりしないが，Self-Direction, Socialization, Communication はそれぞれⅣ，Ⅵ，Ⅰに類似しているのではあるまいか。

7才児及10才児においては内部相関表の考察においてのべたように因子が錯綜し更に解釈が困難になる。第8表について言うと分析された因子は4個であるが，第Ⅰ因子は社会的知能の一般因子のようであるがあまりに後半のアイテムのみに負荷されているのが気にかかる。第Ⅱ因子と第Ⅳ因子は作業の巧致性を意味するもののように見えるが，この両者のちがいを各アイテムの負荷量の相異で現わすならば第Ⅱ因子はマツテをすることができる，きずにほうたいをする等に大く負荷され，第Ⅵ因子は鉛筆けずりに多く負荷されている。更にこの両因子の負荷量の比較をして見ると第Ⅱ因子は放送劇をきく，映画の話断片的にする，等に負荷され，第Ⅳ因子は成績を気にする，留守番がまかせられる，新聞漫画への関心，黙読が出来る，なぐり合でないけんか，遊びの持続性，買物がまかせられる等に負荷している。両因子が等量に負荷しているものは爪切り，整頓，炭火をおこす，健康に気をつける等である。これらの点から見て単に作業能力のみでなく個性的因子も含まれているようにも思われ，殊に第Ⅳ因子は更にその上に知的な性質をもつているようであつて解釈は困難である。第Ⅲ因子は移動能力やそれに関する技術，及び遊戯的関心を反映するものであり，この年令における遊びを通じての社会能力とでも名付けるべきであろうか。

第9表の10才児の場合は7才児の場合より更に解釈が難しい。第Ⅰ因子は理屈に合わぬことに対する批判的な態度をとることとラジオニュースへの関心に大きく負荷し其他友達を求める，司会，手紙のやりとり等にも負荷する所から社会的関心の因子らしく，第Ⅱ因子は友達を求める，あやまちに対する自己批判，他人の立場の理解，学級意識等に大きく負荷する社会連帯性の因子，第Ⅲ因子は手紙，学級意識，司会等の社交的技術の因子，第Ⅳ因子は第Ⅲ因子よりも一般的な生活技術に関する因子ではないかと思われる。5才児7才児に見られ

た因子が10才児では消滅し、相互に似かよつた社会的能力に限定されてくるのは、55～72のアイテムの性質だけに原因を求むべきであろうか。

第10表の12才児においては因子は可成り明瞭な形で分析されている。第Ⅰ因子を主に負荷しているのは買物の自主的選択、教師のあだな、大人に対する理屈、過度の干渉に対する反抗等で、その他類似のアイテムだけに負荷されている所から第2反抗期特有の反抗の因子とも名付けるべきであろう。第Ⅱ因子は社会問題に対する関心、新聞の政治面をよむ、大人らしい待遇を要求する、異性への関心等に主として負荷し其他若干の社会的生活技術にも若干負荷している所から社会意識または社会的関心の因子と思われる。第Ⅲ因子は暗闇をこわがらない、仲間だけの旅行やキャンプ生活、乗物を用いた単独旅行、鬼ごつこなどの幼稚な遊びをやらなくなる等に負荷量が大きい所から青年前期特有の腕白傾向、スポーツ性に関する因子であろう。第Ⅳ因子は親友を求める、自分だけの室を欲する、服装を気にする、大人との応待等に主に負荷している点から青年前期に発生するおしやれ傾向乃至は感傷性に関する因子であろう。第Ⅴ因子はアルバイトをしてみたい、職業選択を考える等に負荷する点から経済的関心と見られる。最後の第Ⅵ因子は一寸解釈が難しいが新聞のスポーツ面や社会面への興味を支配する所から社会的関心に関する因子と思われるが第Ⅱ因子と系統の異なるものであるように見える。しかしある点では第Ⅰ因子と共通な反抗をあらわすアイテムに負荷し、また第Ⅲ因子とも関連がありそうである。敢えて命名をするのを保留しておきたい。

さて以上多義的なデータから困難な分析を行いおぼろげな因子解釈を試みたのであるがこれを通じて次のような仮説が呈示される。「社会性を構成する成分のカテゴリーは発達的に変容されるのではなからうか。」

社会性発達テストを実地に研究した人々の意見を総合して見ると従来から幼児の測定結果は信頼出来るが上級児童や中学生の場合は困難だとされている。この原因はDollが幼児の人格に指定したカテゴリーを、そのまま模倣的に上級まで引延ばそうとしている所にあるのではなからうか。我々のテスト製作過程を省みてもDollのカテゴリーをそのまま上学年へ引延すことの困難はアイテム蒐集の点ですで見られるのである。

アイテムの傾向の異なる4つのテストの因子分析の結果、異種類の因子が見出されたことは当り前のことでおどろくに当たらないが、傾向の異なるテストしか作れなかつたことが既に前述仮説を暗示していることなのである。我々の分析結果では幼児期の場合、従来の常識になつているDoll流のカテゴリーを否定する格別の根拠は持たない。然し児童期においてはカテゴリーの重点が特殊のもの例えばSocializationなどに移行しその成分がいくつかに分化してゆくものと思われる。我々の分析では7才児10才児の資料から明確な因子構造を打出すことを差控えるが、12才児即ち上学年児童もしくは青年前期の社会性の重要な成分は前述の如

く **Socialization** の多様な傾向であることが予想される。今後の課題は発達の各時期における社会性の構成成分の重点関係を明かにし、より妥当な測定手段を考案することにあると思われる。

V 要 約

- (1) 社会性発達テストの改良の目的をもつて従来使用してきた尺度の因子構成を明かにしようと試みた。
- (2) 社会性を構成する基本能力については Doll が幼児の社会性に関してあげた 6 個の категорияがひろく認められているが、これを年長児童にまで及ぼすのは疑問である。年長児童の社会性測定においてこのすべての category に執着するのは測定結果の妥当性を低める原因になりはしないだろうか。しからば年長児の社会性測定にはどのような観点に重点をおくべきであろうか。
- (3) この研究に使用されたテストは、我々が標準化した社会性発達テストで群馬大学及び京都大学において実用化されているものである。このテストの尺度は 4 才～15 才にまたがる 96 項目からなるもので必しも Doll の category に準拠したわけではないが幼児用の部分は可成り類似したものになっている。尙このテストの測定値は社会性を示すものとしては妥当なものとされている。但し我々自身はこのスケールによつて年長児の社会性を云々する場合に必しも満足していなかつた。
- (4) 研究に当つては、このスケールを 4 部分に分けそれぞれに含まれる各アイテムをテスト・バッテリーとする 4 種の社会性発達テストに分割した。5 才児、7 才児、10 才児、12 才児各 100 名ずつを多数標本から抽出しそれぞれ 4 個のテストの被験者と見なした。
- (5) 各テストの内部相関は 2 × 2 分割表から求めた ϕ によつて示され、その相関行列表は第 3 表～第 6 表である。因子分析は Thurstone の完全重心法によつた。その結果は第 7 表～第 10 表に示される。
- (6) 内部相関について見られることは 5 才児 12 才児にはそれぞれ若干の逆相関があるのに対し 7 才児 10 才児ではすべて正の相関になつていることである。これは雑多な家庭環境から統制された学校環境に入ることにより行動の脱逸度が小となり、更に青年前期に個性が分化してゆく経過を示すものと判断する。またある項目たとえば司会ができることなどは学童期の社会性の代表的指標であることが示唆された。
- (7) 分析された因子の解釈は明確とはいえないが、ここから推察されることは社会性を構成している基本能力は発達の即ち年令に 応じて変つてくるものであろうということである。幼児期の社会性の成分として重要なものでも年長児ではその能力は社会性の重要な成分でなくなり、従つてこの能力の有無で社会性を推し測るのは妥当ではなからう。年長児においては幼児期で単に **Socialization** として単一の因子であつたものが多様な型に分化し、それらが社会性の重結な構成成分であることが看取される。今後の課題はこれらの因子を吟味して、より妥当な測定手段を考案することにあると考える。